

令和5年度 住まい環境整備モデル事業  
【課題設定型・事業者提案型】  
提案内容の概要

事業名称：地域の多世代交流の起点となる  
「みんなの居場所」づくりプロジェクト

代表提案者：一般社団法人 人生安心サポートセンターきらり

きらり事務局  
(広島商工会議所ビル8階)



プレゼンター



理事長  
橋口 貴志  
(司法書士)



会員サービス部  
野田 美沙希

# 1. これまでの取組

設立 : 2011年7月1日

事業内容 : 後見、身元保証、資産管理、葬儀、お墓など老後トータルマネジメント

会員情報 : 高齢者が主体 (元看護師・元教師・元公務員など)

会員数延べ350名以上 平均年齢76.7歳 (45~98歳)

## 過去の取組

① 会員交流会等イベント : 過去12年の間に、100回以上開催

創立11周年記念  
終活講演会



奨学生、大学生と  
お花見会



きらりの給付型奨学金  
を受給中の奨学生や、  
広島大学の学生も一  
緒にお花見会

日帰りバスツアー



他こども食堂の見学



# 1. これまでの取組

## ② 地域との連携体制等～ 地域の複数のこども食堂と協力体制を構築

「こども食堂」へ毎年寄付  
(こども夢財団他、  
4つの法人へ)

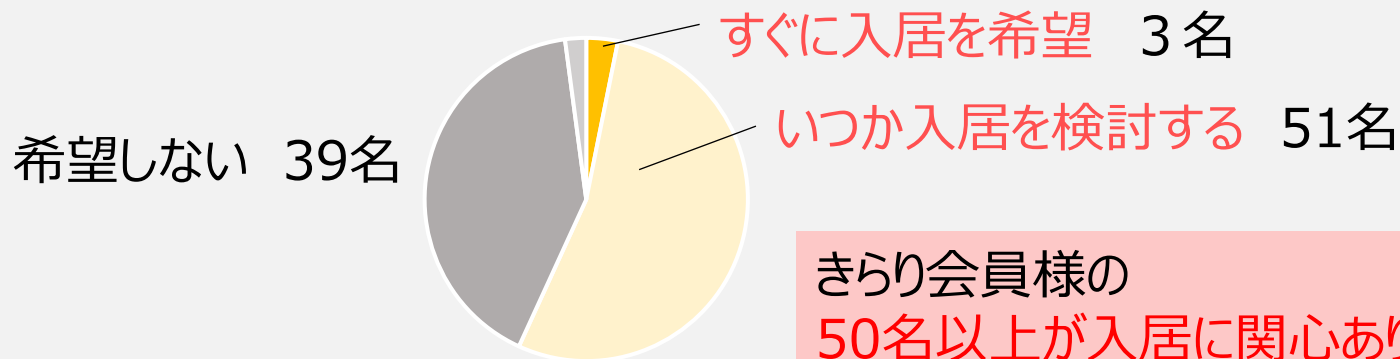


「こども食堂」へ毎月職員のボランティア参加



## ③ 本建設計画アンケート調査 (本年7月実施、対象会員189名、約半数回答)

【質問】きらりビルが完成した際、入居したいと思いますか。



## 2. 現状・問題意識

広島市役所や公民館等関係機関・団体計10箇所に、  
きらりビル建設予定地について、ヒアリングを実施

課題

1

### 単身高齢者の社会的孤立

賃貸マンションが多い地区で社会との接点が減少

課題

2

### 地域のコミュニティ機能が衰退

近隣公民館の活動グループが減少の一途

課題

3

### 高齢者～こどもの各世代間交流が希薄

地域行事が減少し、交流の機会がない

課題

4

### こどもを地域で守り育てる環境が不十分

小学校、保育園等こどもが多い地域なのに関連施設が不十分



### 3. 提案内容

## きらりビル（仮称）

コンセプト：「**みんなの居場所**」

【ハード】

屋上	家庭菜園、にこにこベビールーム
3～6階	多世代ミックス型集合住宅 8部屋（高齢者4、ひとり親2、学生2）
2階	地域開放型 多目的スペース
1階	「みんなの居場所(こども食堂)」 手作り菓子、駄菓子販売



【ソフト（運営方式）】

#### 対象：多世代

- ・こども
- ・ひとり親世帯
- ・高齢者
- ・大学生、地域住民など

- ・入居者、食堂関係者、多目的スペース関係者、当団体の担当職員で協議会を設置
- ・血縁のない大きな家族、昔の村をイメージ
- ・地域で手をつないで子育て

### 3. 提案内容

#### 建設予定地（広島市中区舟入幸町9番19号）周辺の概況

- ・広島市中区、**周囲1Km（赤丸）** 圏居住人口約4万人
- ・年代別人口構成比30～40代、こどもが多い
- ・地区特性は「居住型」、借家57%、共同住宅84%

4～10階建ての賃貸マンションが多い



- 近隣の学校(1km範囲)
  - 小学校 4校  
(児童数：合計約2000人)
  - 高等学校 3校  
(生徒数：合計約2300人)
- 広島大学東千田キャンパス1.7km
- きらり事務局  
(広島商工会議所ビル) 2km
- 路面電車通り沿い、歩行者多い  
視認性に優れた敷地

### 3. 提案内容

#### ソフト面での工夫

point  
1

**常駐スタッフ** (新規雇用職員・ボランティア)を1階に配置

→いつも誰かいる安心感



point  
2

1・2階に**地域開放**された施設を配置

→子どもが行きたい場所



point  
3

**入居者**は高齢者、一人親世帯  
大学生など**多世代世帯**

→大家族のイメージ



point  
4

「こども食堂」  
**子育て世帯の集い**の場

→地域の人たち、県内大学生も、  
一緒に運営に参加



# 3. 提案内容

## ハード面での工夫

point  
1

### 見えるデザイン

外から食堂にいる  
**常駐スタッフ**が見える  
デザイン

→ 安心して入る  
ことができる

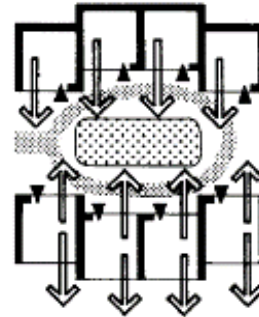


point  
2

### 住居のリビングアクセス

**生活の向き**が  
共有スペースへ向く  
居室の設計

→ 外出、帰宅など、  
生活を相互理解



point  
3

### 入居者ミックス

同フロアに**多世代入居**  
**バリアフリー**設計

→ 世代間の交流を促進  
例) 高齢者と大学生など



point  
4

### 道路境界のデザイン

・誰でも利用できる  
**ベンチ**を設置



・敷地から2階への  
**外階段**の設置



→ 歩道、敷地、建物の  
自然な調和





# 3. 提案内容

## 産学連携・他団体との連携

### 広島大学との産学連携

#### ソフト（学術指導）

人間社会科学研究科心理学プログラム  
服巻 豊 教授

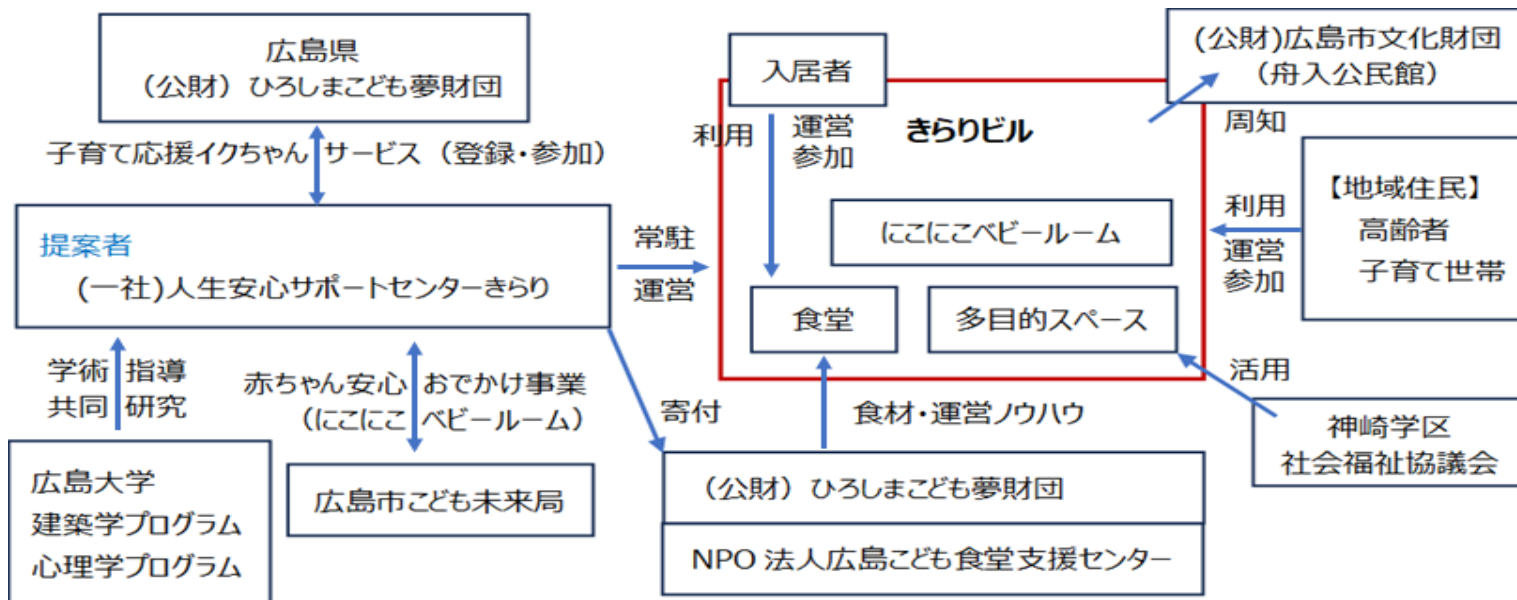
- ① 食堂運営方策の検討
- ② 多目的スペース運営方策の検討

#### ハード（共同研究）

先進理工系科学研究科 建築学プログラム  
角倉 英明 准教授・石垣 文 助教

- ① 入居者・地域住民交流効果の検証
- ② 住宅の開放性と共有領域の形成

### 行政機関・他団体



## 4. 期待される効果

血縁のない大きな家族、昔の村をイメージ  
地域で手をつないで子育ての仕組みを構築

効果  
1

### 単身高齢者が社会の輪に参加

例) 食堂やビル運営に関する役割を担うことで生きがいを得る  
食堂に居るだけで「ひとりじゃない」と安心できる

効果  
2

### 地域のコミュニティ機能の活性化

例) 地域住民参加のイベント開催 (餅つき、フリーマーケットなど)  
※県内の大学生が、食堂運営、多目的スペース運営に参加し、  
社会的課題に関心が高い大学生の育成にも寄与する

効果  
3

### 多世代交流を促進

例) 高齢者が、こどもに将棋や三味線などを教える  
※きらりから返済不要の給付型奨学金を、学生へ給付中  
その奨学生たちと、きらり会員様たちの交流も実施中

効果  
4

### こどもを「地域で守り育てる」仕組み

例) ボランティアの高齢者・大学生が、夕食後に子どもと一緒に  
宿題やゲームをする ※保護者への継続的支援にもつながる

## 関係者のカウントによる検証



- ① 食堂利用者数
  - ② 多目的スペース 利用者（団体）数
  - ③ にこここベビールーム 利用者数
  - ④ 継続的なボランティア参加者数
- ※利用者へのヒアリングも実施

※入居者については竣工後、1年以内に満室を目指します。

本事業の検証結果をもとに、課題点などを反映させて

順次 2号案件、3号案件として、同様の機能を持った

中規模の多世代型住宅「きらりビル」の建設を、今後も進めて行きます。